

○令和4年度 教育事業 「みんなの登山物語～登山を通して脳力を鍛えよう～」

(R4.7月16日(土)・17日(日)【日帰り】、8月8日(月)～9日(水)【2泊3日】)



◆目的

今まで学校で学んだ知識や経験を関連付けながら、登山の準備や実践を行うことにより、今後の学習における探究力を高める一助とする。

◆参加実績(定員30名)

参加23名

- ・旭川市 7人
- ・東川町 3人
- ・東神楽町 2人
- ・深川市 1人
- ・富良野市 5人
- ・中富良野町 2人
- ・当麻町 2人
- ・三笠市 1人

(小学5年生:13人、6年生10人

/ 男子12人、女子11人)

◆プログラム

【日帰り】

①講義「登山の準備をしよう」

登山に必要な装備について学び、それに加えて登山計画の重要性を学習した。今まで学校で学習した知識を復習し、十勝岳の模型を確認しながら等高線の確認をしたり、縮尺を活用して実際の距離を求め、登山計画に活用できることを確認した。

(復習内容: 天気、等高線、縮尺、速さ)



②演習「軽登山をしよう」

交流の家周辺の地形図から実際の距離を求め、ハイキングを実施した。参加者たちは、実際にハイキングの所要時間から自分の速さを求めた。



③講義「ふり返り」

参加者たちは学習した内容をふり返り、自分が登山するときに必要な服装・用具について確認した。

また、実際に調べた自分たちの速さをもとにして「交流の家～十勝岳山頂」までの登山計画を立てる宿題を持ち帰った。



## 【2泊3日】

### 1日目

- ①チームワークを高めよう（120分）  
アイスブレイクや館内ウォークラリーなどを通して、グループの仲間との関係作りを行った。
- ②登山の計画を立てよう（200分）  
宿題で取り組んだことをグループで共有して、グループで立てた。十勝岳の模型や地形図を確認し、休憩する場所や歩くペースなどを話し合い、次の日の天気用法を元にして道具などの準備を行った。

### 2日目

- ③望岳台まで登ろう（交流の家～望岳台）（300分）  
グループで考えた登山計画を元にして、登山を行った。登山道がわからなくなったり、途中で体調不良者が出たが、グループで協議し決定した。
- ④軽登山のふり返り（85分）  
実際の登山を終えて、自分たちの計画通りにいったかどうかを確認し、次の日の登山の計画を見直した。地形図の等高線などを再度確認して、次の日の準備を行った。

### 3日目

- ⑤十勝岳に登ろう（望岳台～雲ノ平）（320分）  
グループで立てた登山計画をもとに、登山を行った。雨や風の影響もあったが、自分たちで協議しながら服装を考えたり、計画を修正したりしながら、全員がゴールに到着することができた。
- ⑥ふり返り（90分）  
事業を通して学んだ知識や技術、身に付いた力を今後どのように活用したいかを考え、ふり返りシートに記した。

#### ◆事業運営・企画のポイント

- 参加者が活動に集中できるように、天候や登山道などの安全管理は職員が行う体制を取り、参加者が自分たちで考えた計画をもとに主体的に登山活動を実践できる環境を整えた。また、参加者の安全を考え、職員やボランティアを各グループに配置した。
- 参加者が自分たちで考えたり、グループで協議して意思決定をできるようにするため、職員やボランティアは軽微なアドバイスにとどめ、参加者が自ら考えて答えを出せるようにした。

#### ◆参加者の声

- 登山で道を間違えたけれど、そのときに仲間と話し合っって適切な判断ができた。この経験をもとに、火事などの緊急の時に冷静に話し合いたいと思う。
- 計算とかの勉強が苦手だったけれど、わからないことを仲間に伝えて教えてもらうことで少しずつできるようになってきた。あきらめないでやり続けることが大切だとわかった。
- みんなと話し合っている時に自分の考え伝える力が身に付いたと思う。将来の夢のためにこの力を活用したい。
- 地図の距離を測って、縮尺を使うことで、実際の距離を調べることができた。
- 道が険しいとき、登山道の様子を見ながら「こっちのほうがいいんじゃない」と安全な道を判断することができた。



◆事業の成果

- ①参加者は学校での既習事項をもとに、等高線や縮尺を活用して、地形図から実際の距離や高度について考えることができるようになった。
- ②登山の知識や学校で学習した知識を活用することで、今までの学習を小学生の力でも登山を行うことができた。
- ③仲間と話し合いながら登山をすることで、目標のために自分の意見を伝える重要性に気付くことができた。
- ④天候や登山道の安全管理は職員が行い、参加者は自分たちの活動に専念できるような体制を取っていたため、道迷いなどの失敗があってもそこから学びを深めることができた。
- ⑤足が痛かったり、途中で下山したりした参加者も、事業終了後は次も参加したい意志を示すなど、苦しい思いをしても楽しさを感じられる事業になった。
- ⑥登山に苦手意識を持っていた参加者が、事業の中でサブリーダーを務め、事業後には自分の登山道具を一式購入して別の事業にも参加していた。

「みんなの登山物語～登山を通して脳力を鍛えよう～」事業報告書を参照



報告書QRコード